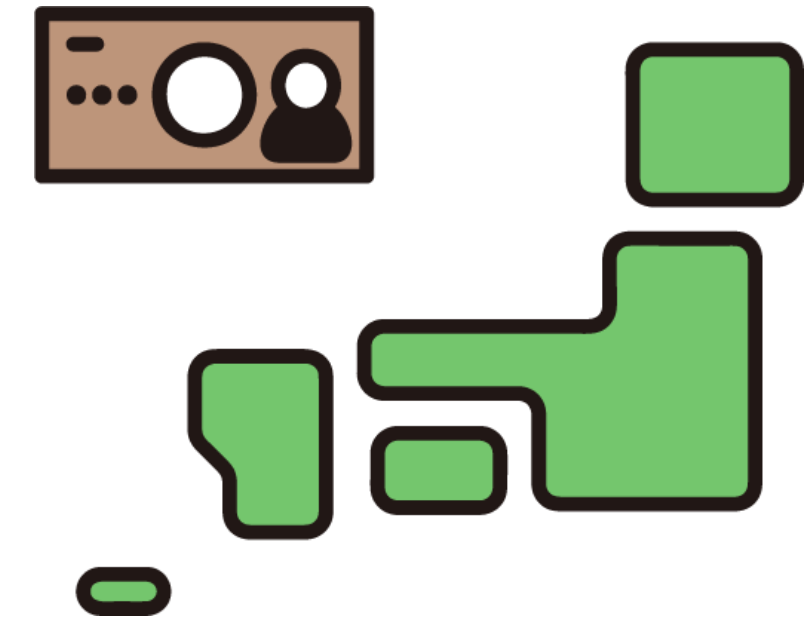


公立中学校における 財政×フューチャーデザインの実践

埼玉県 宮代町立百間中学校 高橋 克志



本日の発表内容

#01 実践について

#02 生徒のフューチャーデザイン

#03 成果

#04 課題

発表内容

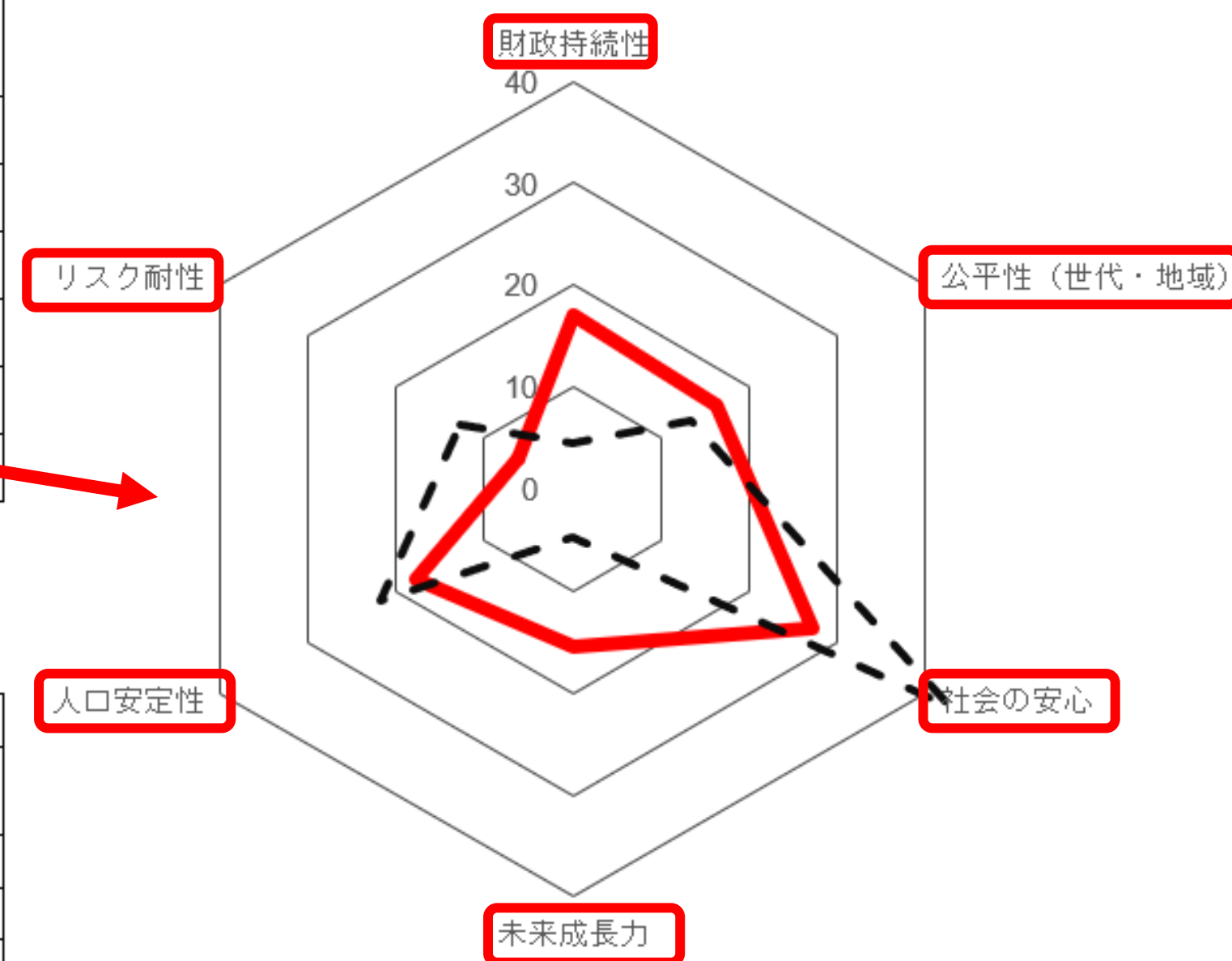
#01 実践について

レーダーチャートについて

レーダーチャートについて

項目	配分(兆円)	理由
社会保障関係費	20.5	
地方交付税交付金	17.8	
防衛関係費	8	
公共事業関係費	3.7	
文教および科学振興費	30	
国債費	20	
合計	100	※その他は今回省略

タイプ	
財政持続性	今だけでなく、将来もお金が回り続ける社会
公平性（世代・地域）	今の人も未来の人も、住む場所がちがっても、一部の人にだけ負担を押しつけない社会
社会の安心	だれでも、困ったときに助けてもらえる安心がある社会
未来成長力	今はまだ見えなくても、将来の力になることに投資する社会
人口安定性	子どもを産み育てやすく、年をとっても安心して生きられる社会を考えること
リスク耐性	災害や大きな問題が起きても、社会がくずれないように備えること



レーダーチャートの重みについて

項目＼軸	財政持続性	公平性 (世代・地域)	社会の安心	未来成長力	人口安定性	リスク耐性
社会保障関係費	0	1	4	1	3	1
地方交付税交付金	2	4	2	1	3	1
防衛関係費	1	2	0	1	0	4
公共事業関係費	3	1	1	0	1	4
文教・科学振興費	4	2	2	4	2	0
国債費	0	0	2	0	0	1

リーダーチャートの効果

認知、判断、行動の変容を促すツール

生徒の声をカテゴライズ

可視化・分かりやすさ 63件

→見やすい／一目で分かる／視覚的 など

比較・バランス理解 18件

→現状との比較、優先順位、全体配分の把握

思考の整理・深化 22件

→考えが整理される／深まる／客観視できる

意思決定・試行錯誤 11件

→数値を変える／選択する／取捨選択

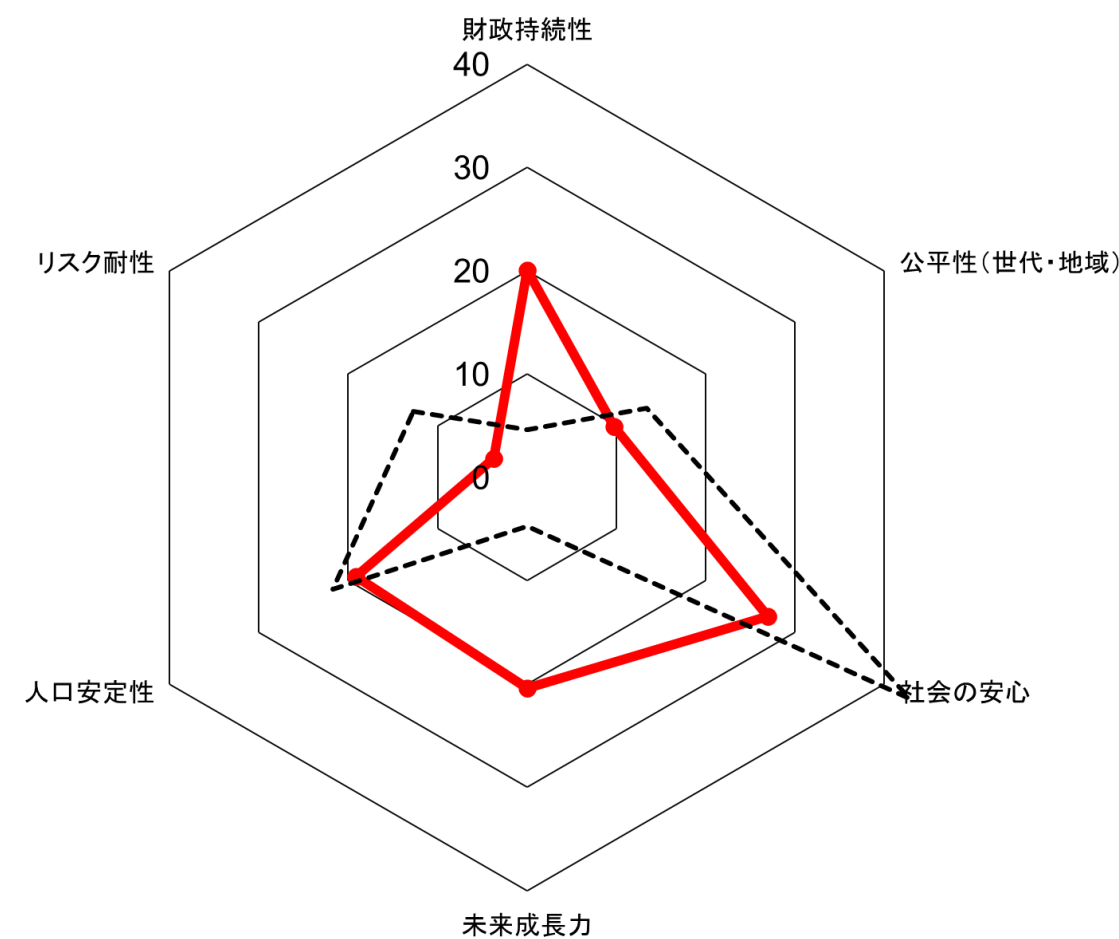
社会、未来との接続・日本社会・課題・未来への影響理解 7件

→主体性・関与感／自分事化／意欲／楽しさ／タイプ理解



#01 実践について レーダーチャートによって

本実践では、レーダーチャートによる可視化を起点として、



認知

見えた・分かった

判断

比べられる・評価する

行動

変えたいくなる

が段階的かつ連続的に変容したと考える。

レーダーチャートは・・・

レーダーチャートは「財政」「社会」を

「与えられた制度を評価する対象」

「自ら関与し設計する対象」

へ変換するツール

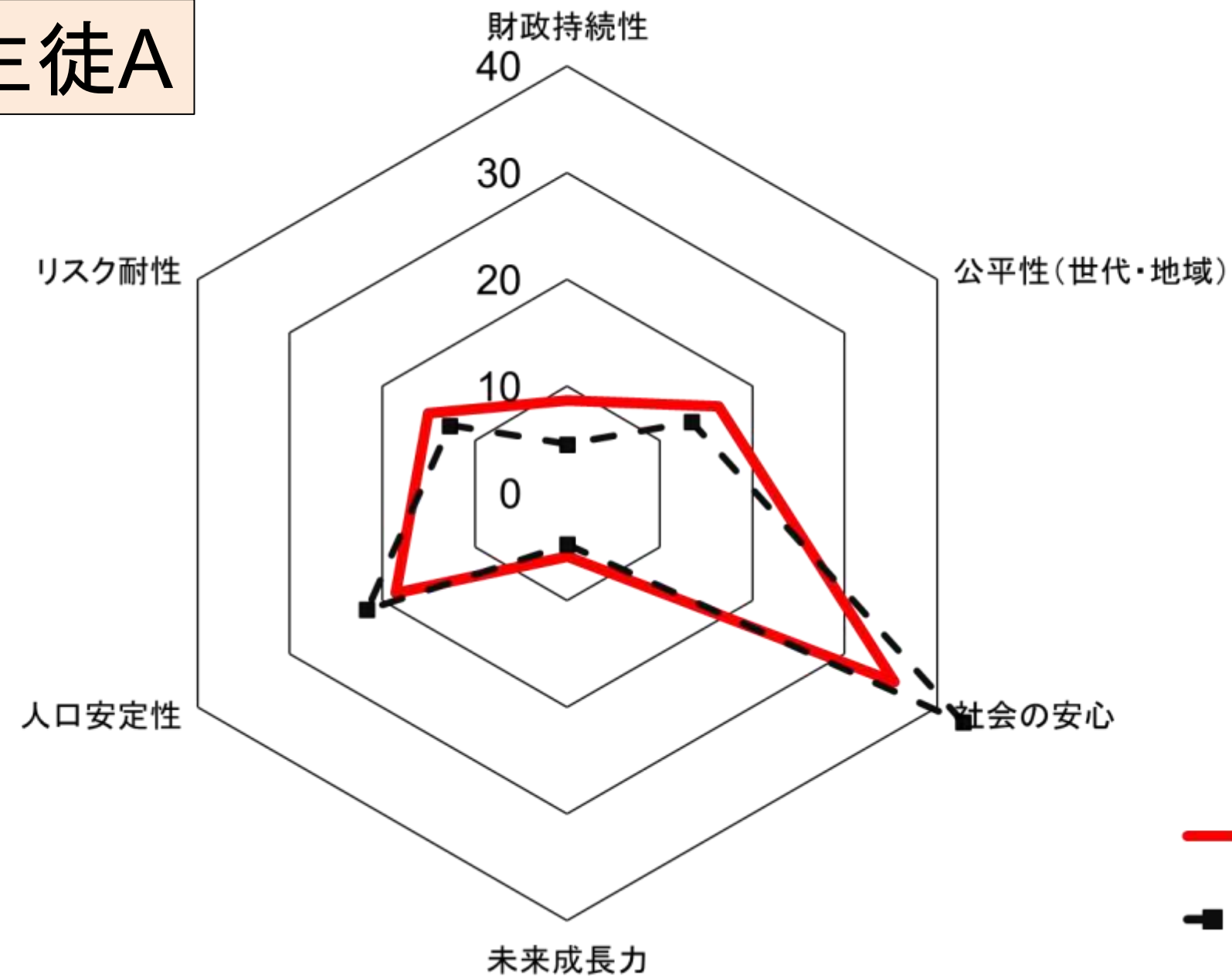
具体的な授業実践

レーダーチャートを活用した授業

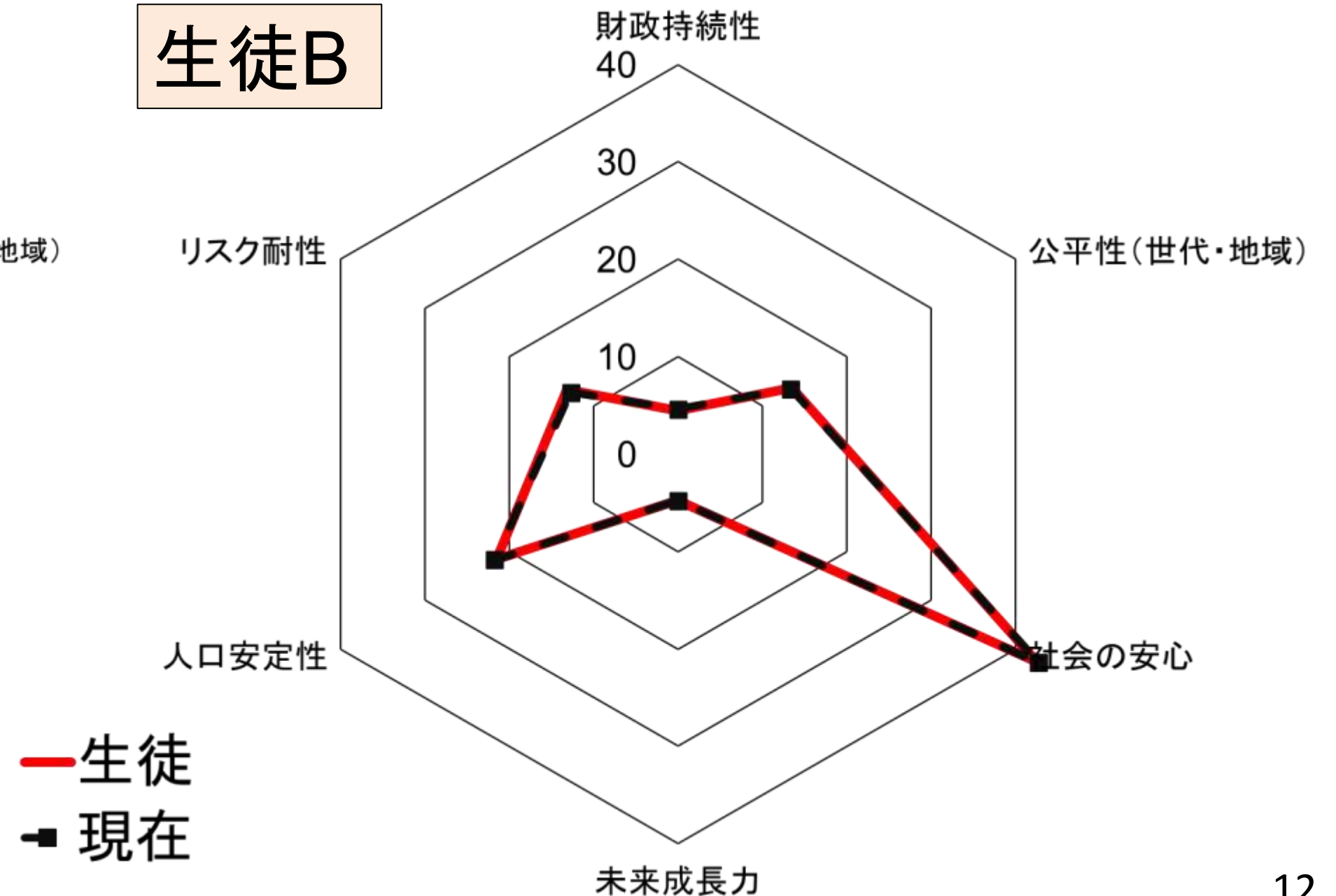
作業1 いままでの学習を踏まえて予算を分配

問い: よりよい社会にするためにどんな予算配分が良いか？

生徒A



生徒B



— 生徒
-■- 現在

作業2① 未来人からの手紙を読む

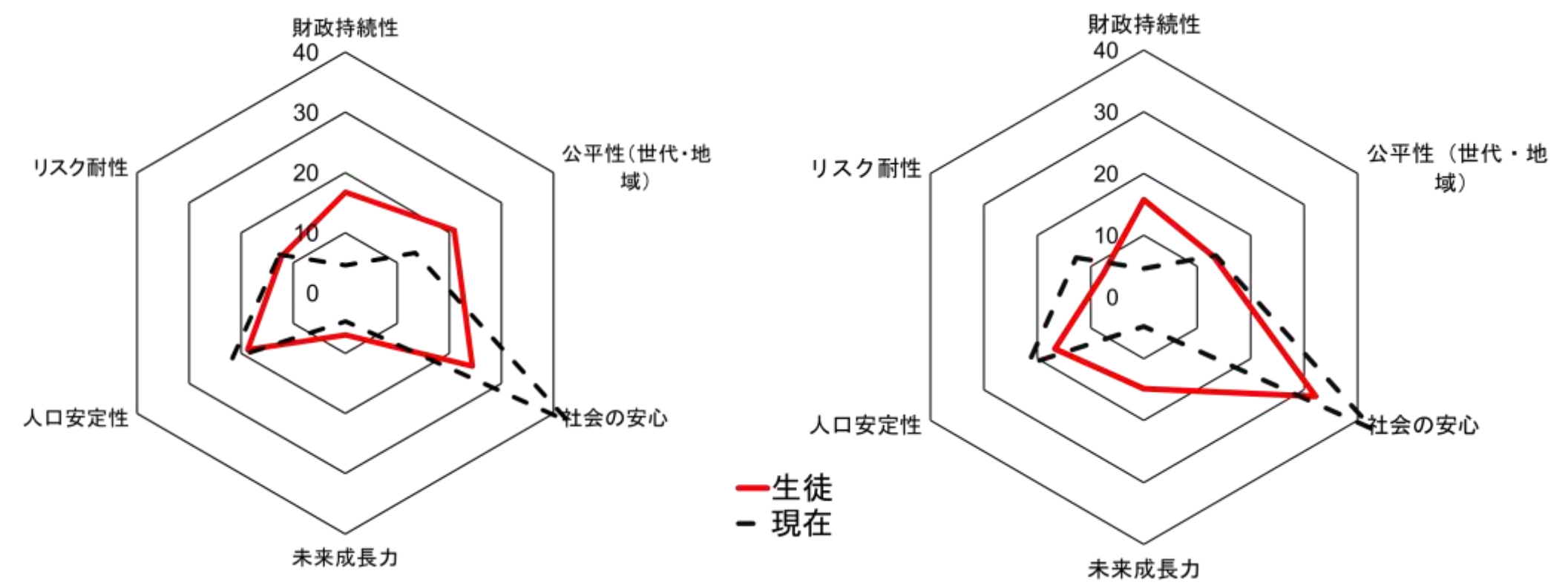
2026年のみなさんへ

2070年では、少子化に歯止めがかからなかったため、人口が8700万人です。それによって、若い世代に負担が増え、地方では消滅危機に陥る自治体もあります。さらに働き手の不足などで日本経済は世界から置いてきぼりになってしまいました。国の借金も膨大です・・・。

そこで、よりよい未来になるように国の財政を設計してください。みなさんのこども・孫世代が幸せに暮らせる日本を考えてみませんか？

作業2

未来人・現在人に分れて財政を設計する



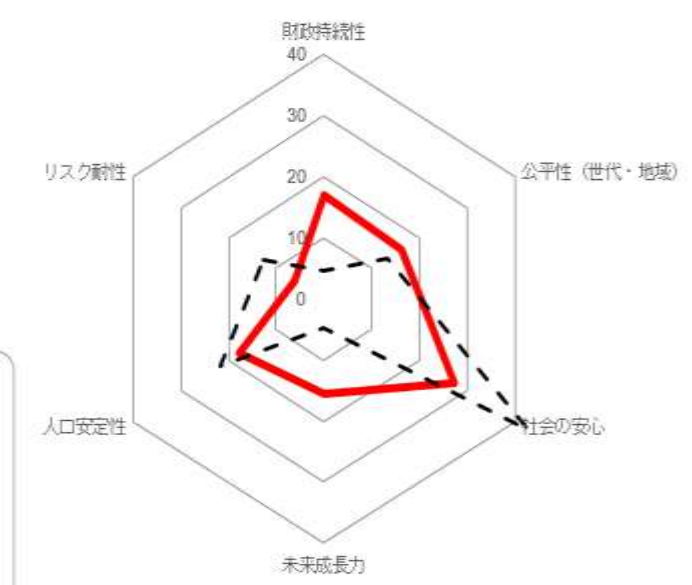
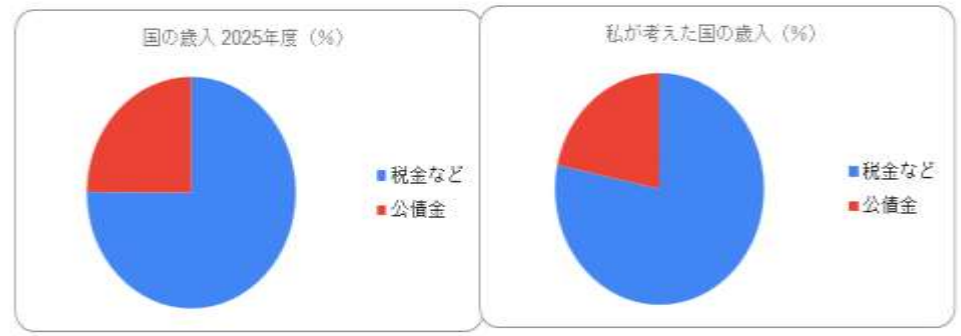
作業3

歳入割合を考え、未来人と現在人で意見交換

私は将来を考え、予算を **文教および科学振興費** と **社会保障関係費** 多く支出するのがよいと考えました
私のデザインしたタイプは **社会的安心** 型です。
※ だれでも、困ったときに助けてもらえる安心がある社会

私は将来を考えて財政の歳入は次の割合がよいと考えます。

	(%)
税金など	78.3
公債金	21.7
合計	100



作業4 未来人からの手紙に返信をする。 デザインした社会を手紙形式でまとめる。

未来の人へ

日本は、今

という問題を抱えていると考えました。

その問題を少しでも小さくするために、

私は

という社会を私なりにデザインしてみました。

そのために、私たちは

は選び
は我慢します。

完璧ではないけれど、私がデザインした社会で、あなたたちの暮らしが

ことを願っています。

私が考える歳入 %



税金など

公債金

私のデザインした歳出



社会保障関係費

地方交付税交付金

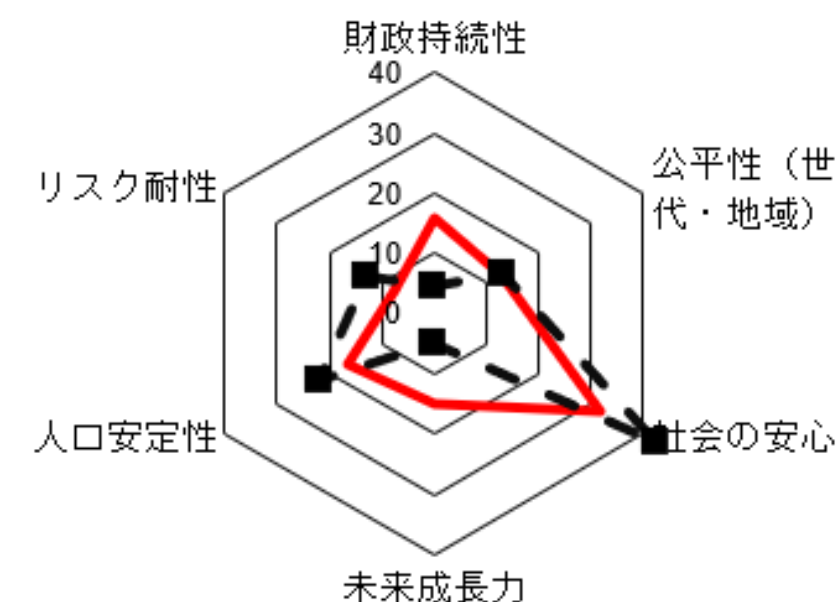
防衛関係費

公共事業関係費

文教および科学振興費

国債費

※その他を省略しています



現在の歳出



社会保障関係費

地方交付税交付金

防衛関係費

公共事業関係費

文教および科学振興費

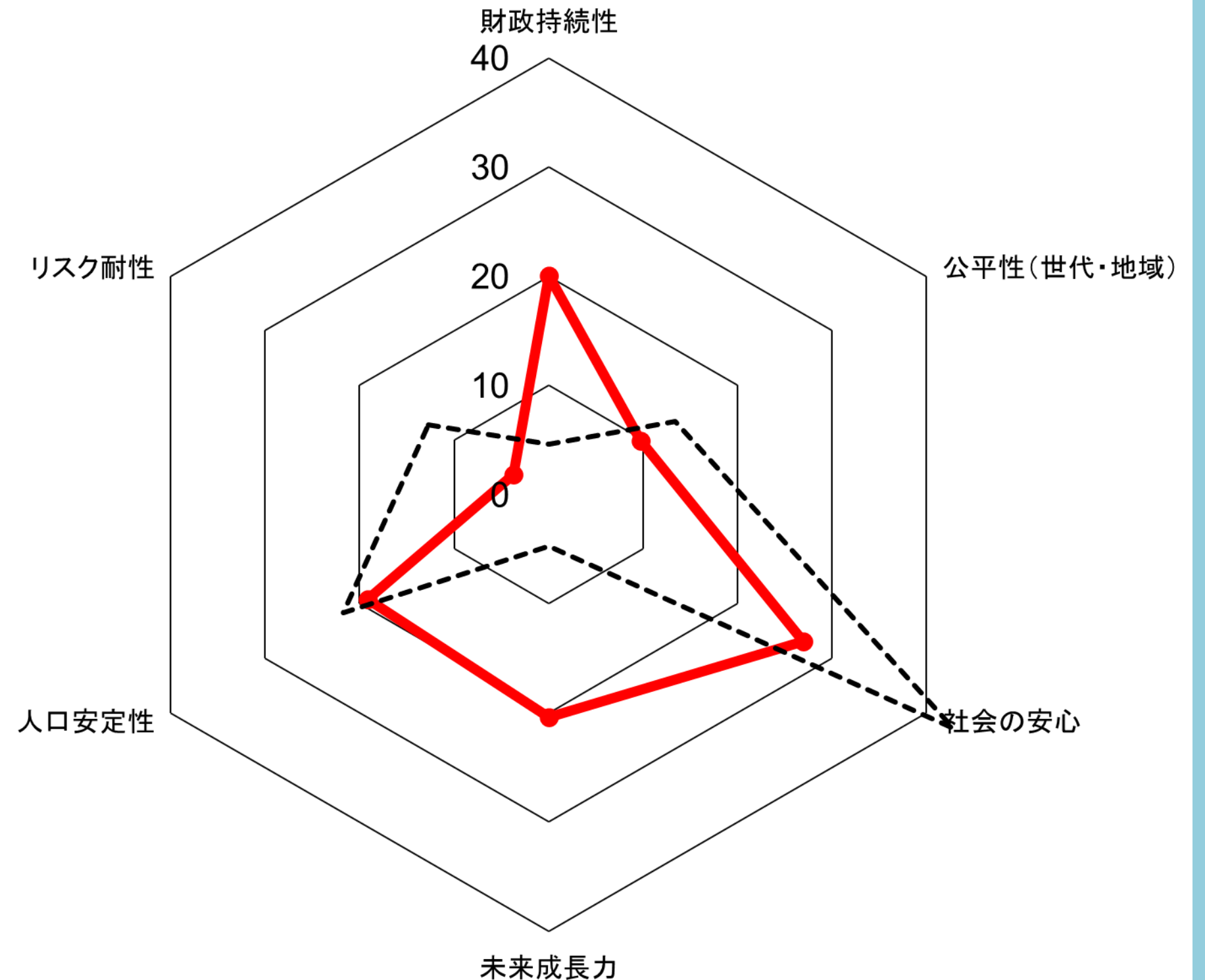
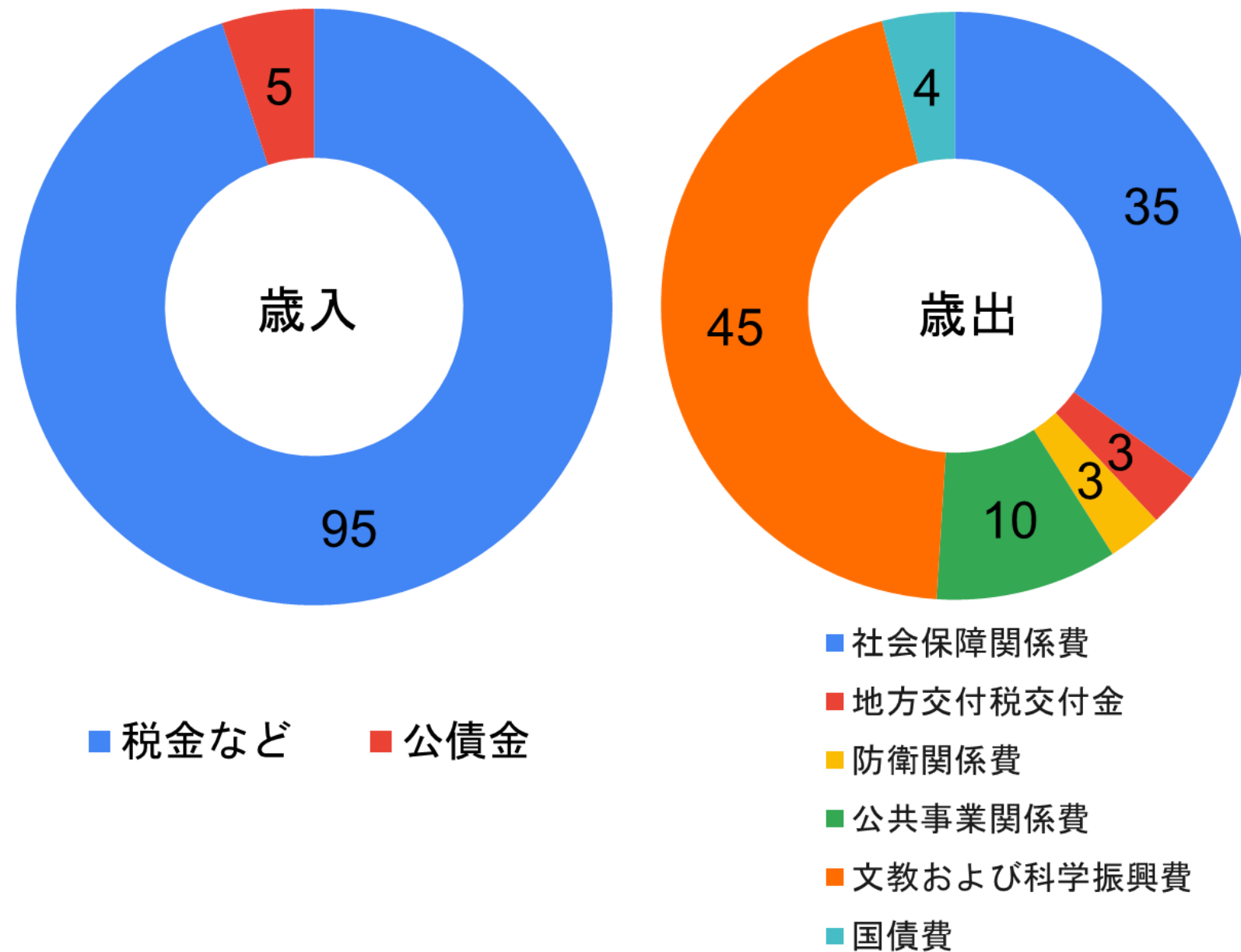
国債費

発表内容

#02

生徒の
フューチャーデザイン

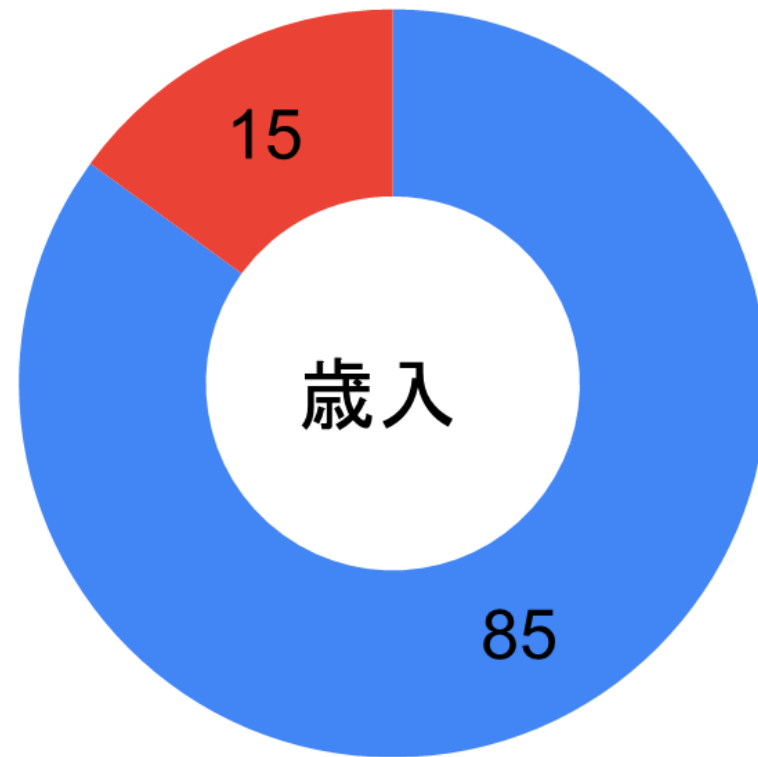
現代のことだけを考えない未来成長型社会



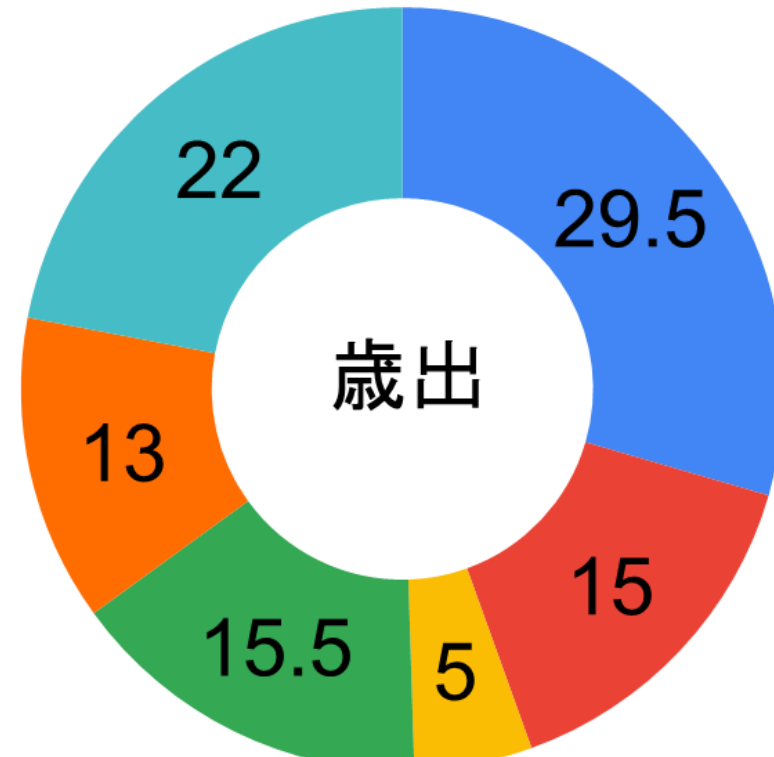
現代のことだけを考えない未来成長型社会

私たちは、自然災害が起こったときのリスク耐性は少なくしました。そのかわり、文教および科学振興費に重点を置きました。若者だけの負担が増えることのない、また現代の人のみじゃなく、未来の人が豊かに暮らせること。そして子供の作りやすい環境があり、人口減少また少子高齢化が進まない社会になることを願っています。

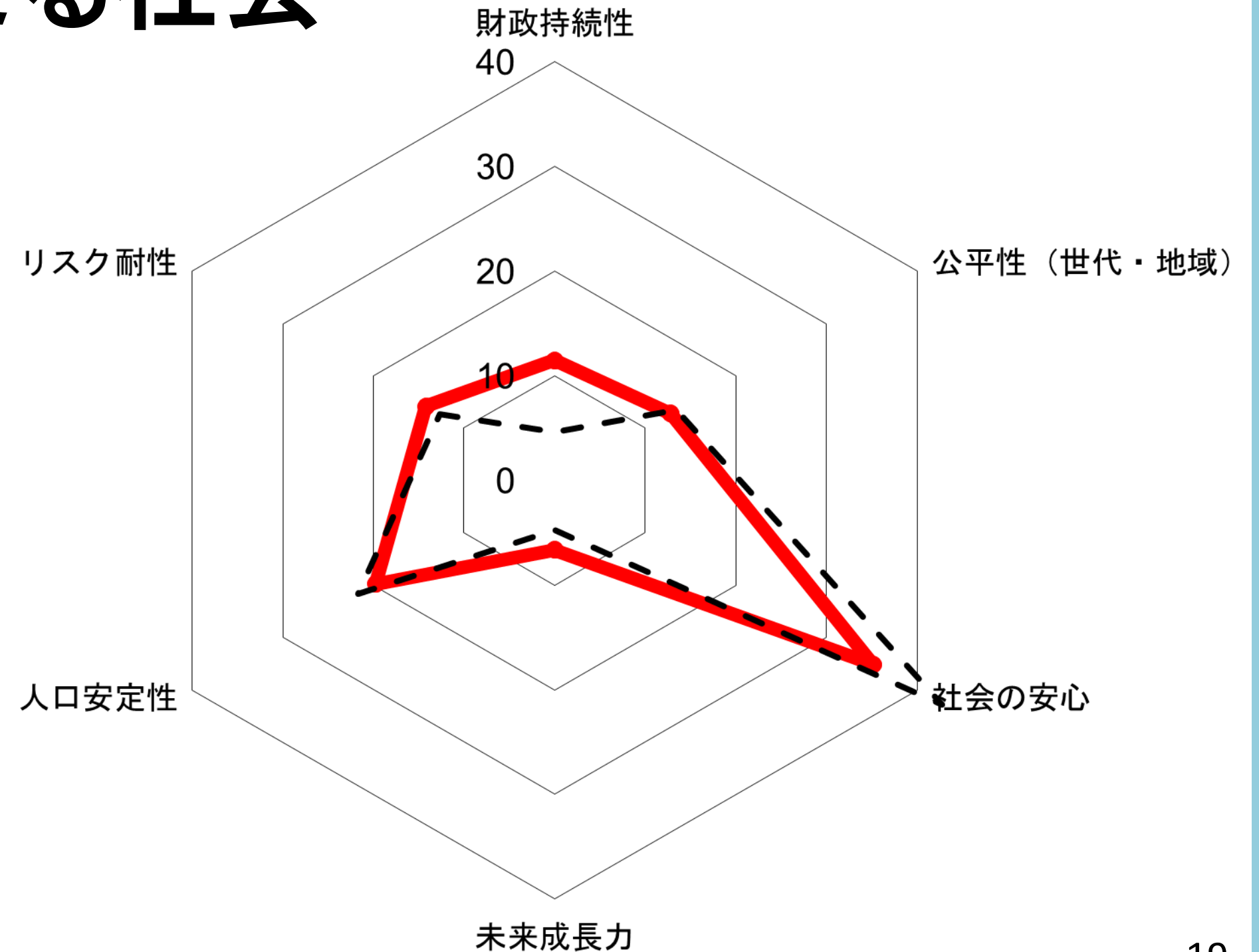
国の「経済」という根本的な問題から立て直し、 国の財政にゆとりがでる社会



■ 税金など ■ 公債金



■ 社会保障関係費
■ 地方交付税交付金
■ 防衛関係費
■ 公共事業関係費
■ 文教および科学振興費
■ 国債費



国の「経済」という根本的な問題から立て直し、 国の財政にゆとりがでる社会

今予想されているような未来のすがたではなく、現在よりも豊かで、経済も順調であり、人々が将来に希望を持てるような社会であることを願っています。一方で、私が考えた歳出は、防衛費を大きく削っています。今、各地で戦争が増加し、世界情勢は不安定です。そんな中、防衛費を削ってしまっても本当に良いのかという不安もあります。今後、その不安定な情勢を明るい方向に持っていけるような人材を世界に送り出すために、文教及び科学振興費を増やしました。また、歴史的にみても、経済が不安定になれば、世界情勢も不安定になります。世界を良い方向に持ってくため、日本がリードしていけるような社会になっていることを願っています。

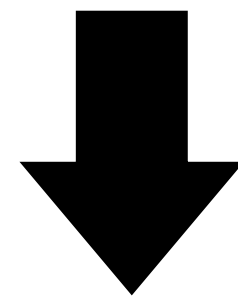
発表内容

#03 成果

フューチャーデザイン学習による生徒の変容

社会 = 「与えられた制度を評価する対象」

「自ら関与し設計する対象」



生徒は

「社会的意思決定に関わる立場を意識」

フューチャーデザイン学習による生徒の変容

この変化は・・・

- ①将来世代を考慮した記述（思考）が出現
- ②未来志向の選択肢を選ぶようになる

社会参画的思考の萌芽を示している

成果①

消費税に関する問いに表れた、

生徒の**思考**の変化

生徒に以下の質問を実践前後で実施

問① 消費税率について、あなたはどのように考えますか。

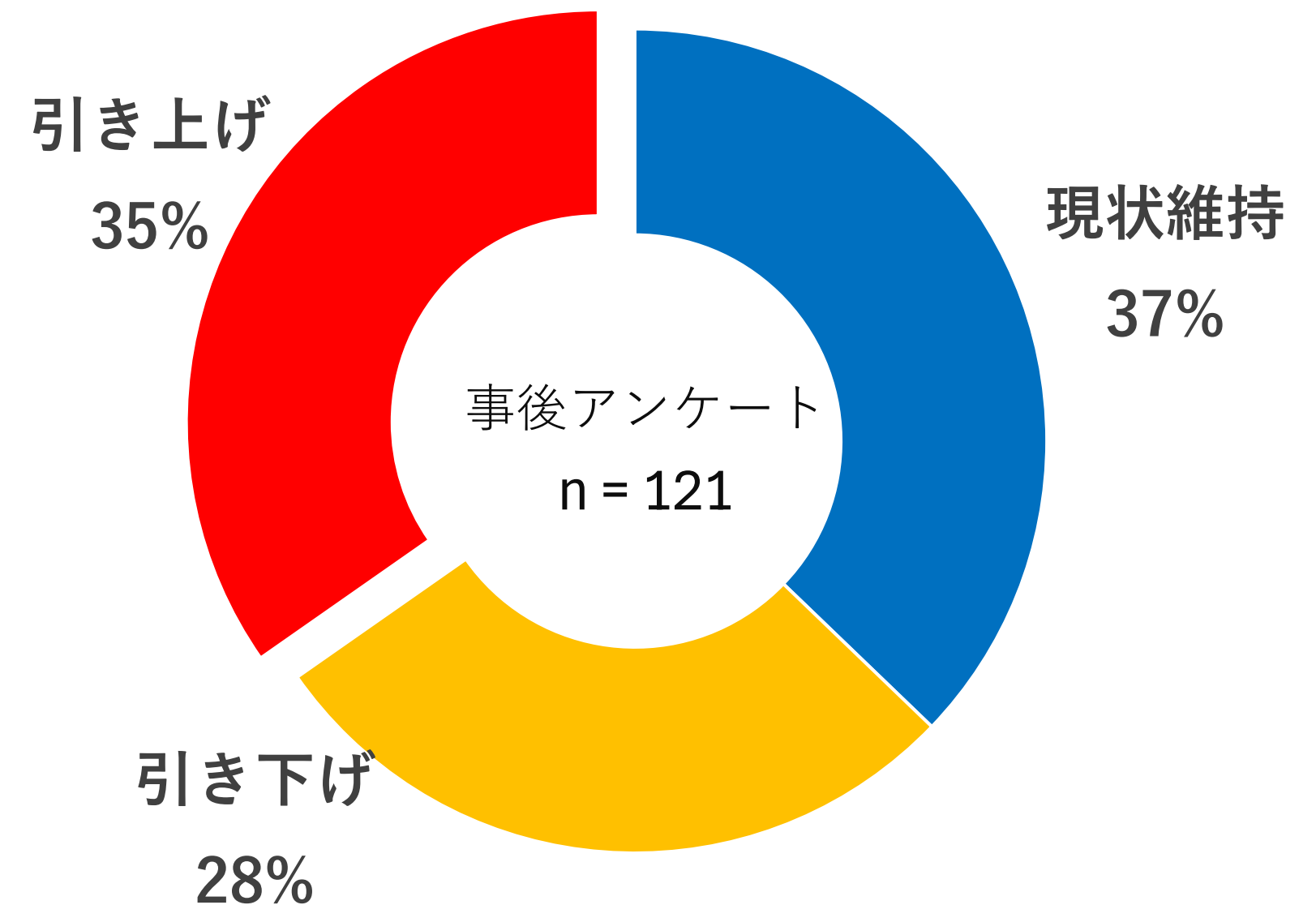
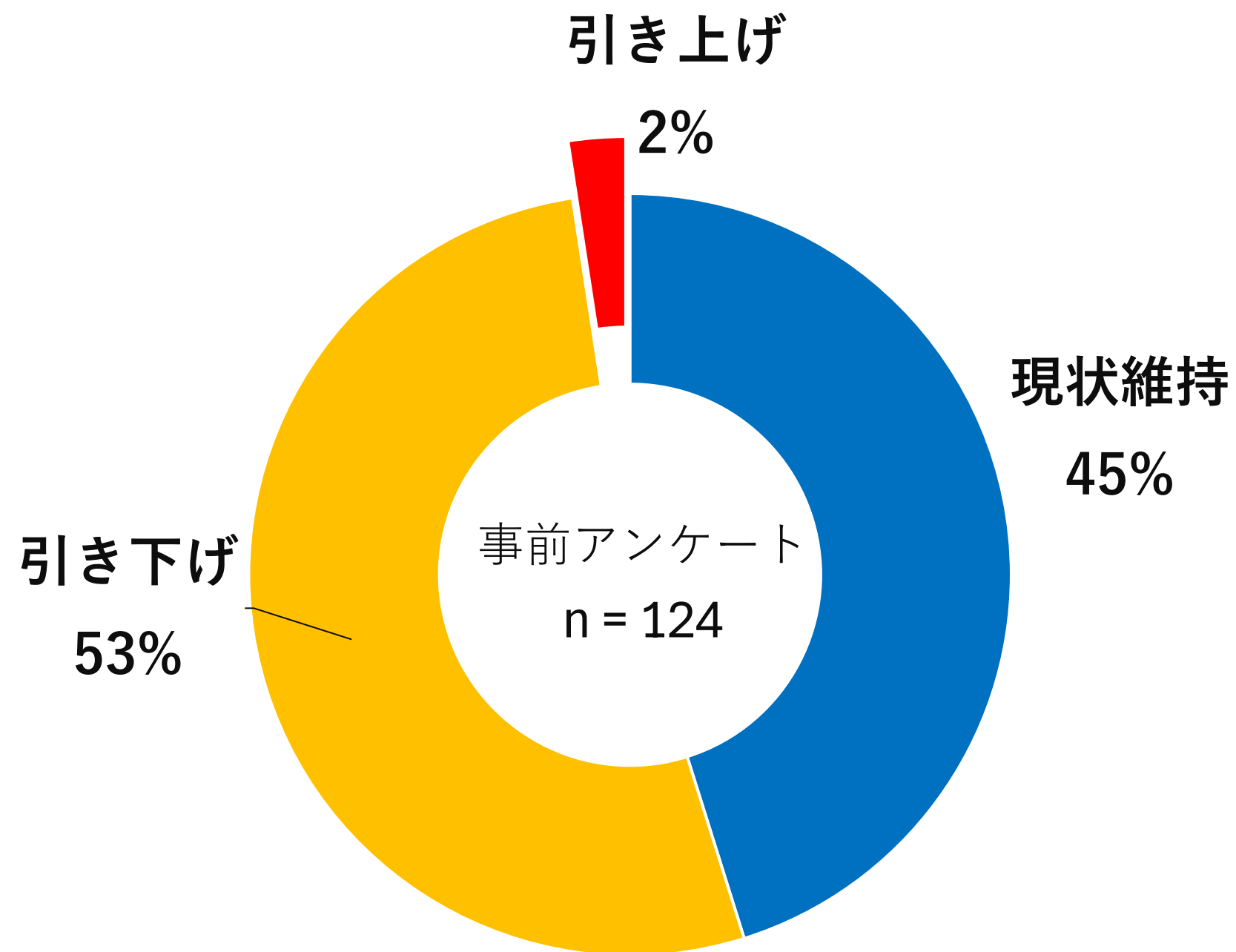
A: 現状維持

B: 消費税を引き下げるべきである

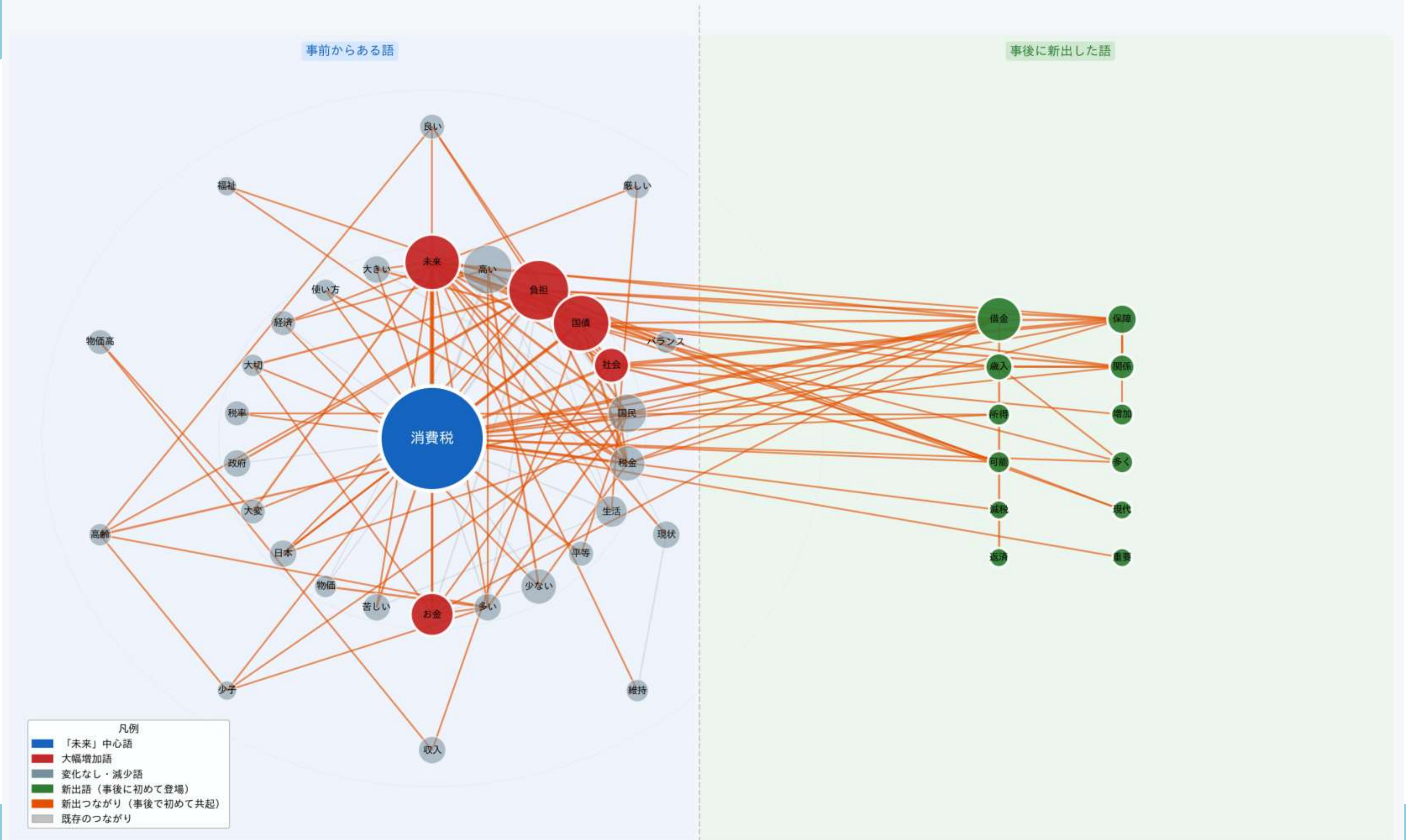
C: 消費税を引き上げるべきである

問② その理由

問① 消費税率について、あなたはどのように考えますか。



消費税 共起ネットワーク【事後の変化を強調】
 左：事前からある語（同心円配置） | 右：事後に新出した語
 ノード大きさ＝出現頻度 オレンジのエッジ＝事後で新たに生まれたつながり



問② その理由

実践前：『**今の生活**』を中心にした記述

「消費税が上がると、買い物が大変になる。」

「今の家計に負担が増えるのはよくないと思う。」

自分・家族
目の前の負担
即時的な損得

実践後：『**未来・将来世代**』を中心にした記述

「本当は未来の政府のためなら消費税率上げるのがいいと思うけれど」

「消費税を下げてしまうと、今の国民は楽かもしれないけれど、未来に借金を先送りしてしまうことになると思う」

将来世代
制度の持続性

成果②

アンケートに表れた、

生徒の**選択**の変化

本実践で用いた質問(選択肢 A B C)

Q1:国の(未来・現在・過去)お金の使い方として、あなたの考えに一番近いのは？。

Q2:国のお金が足りなくなったときの考えとして、近いのは？。

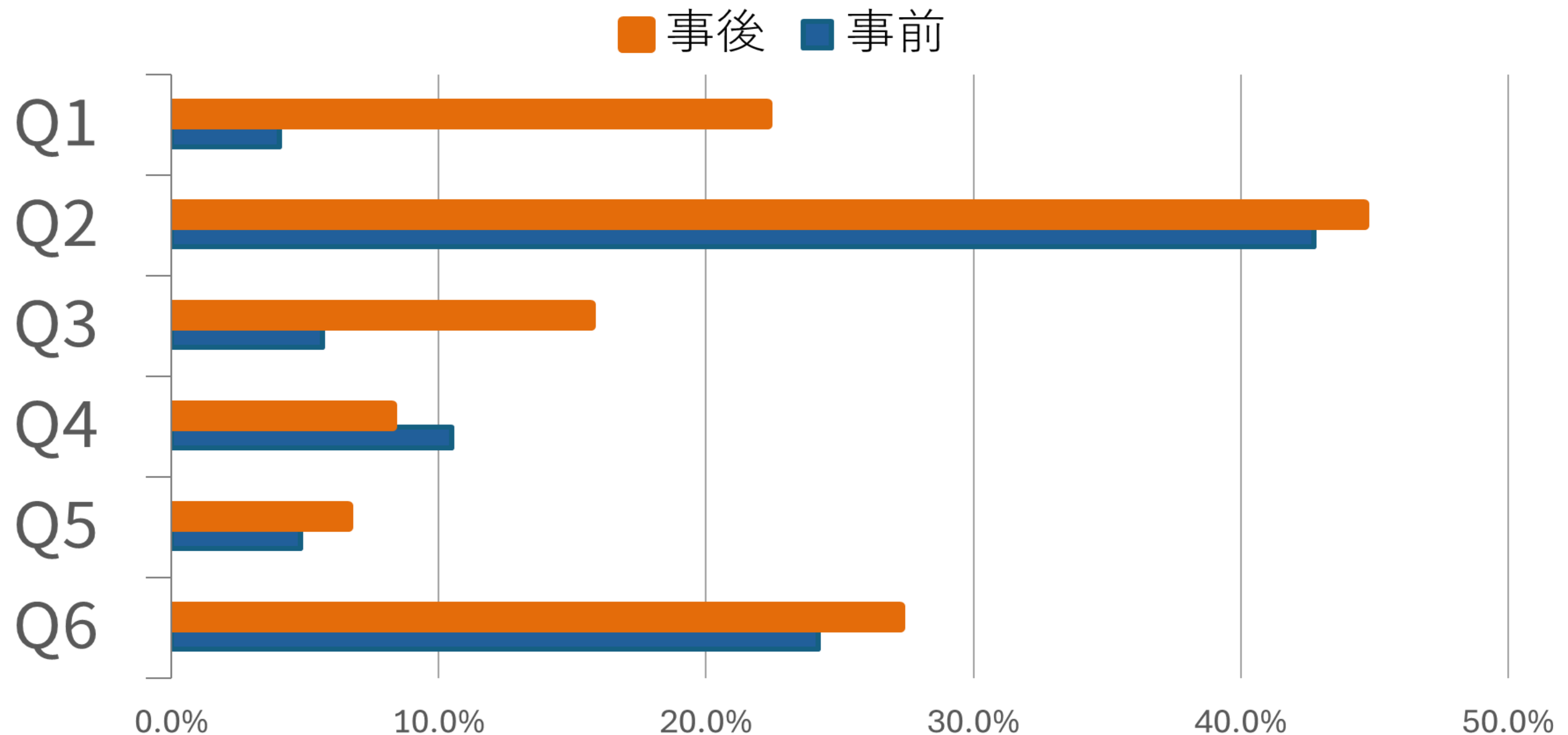
Q3:国は、すべてにお金を使うべき？(順位をつける？すべてに使うことはできない？)

Q4:国の政策を決めるとき、あなたの考えに一番近いのはどれですか。

Q5:もしあなたが、国の未来のために何かを決めなければならないとしたら、考えに近いのはどれですか。

Q6:あなたが目指したい社会に一番近いのはどれですか。

選択肢Cを選んだ生徒の割合変化



未来世代を考慮した選択が実践後に増加

財政×FD実践によって

レーダーチャートによって視点の変化

社会を「与えられた制度を評価する対象」👉「自ら関与し設計する対象」へ

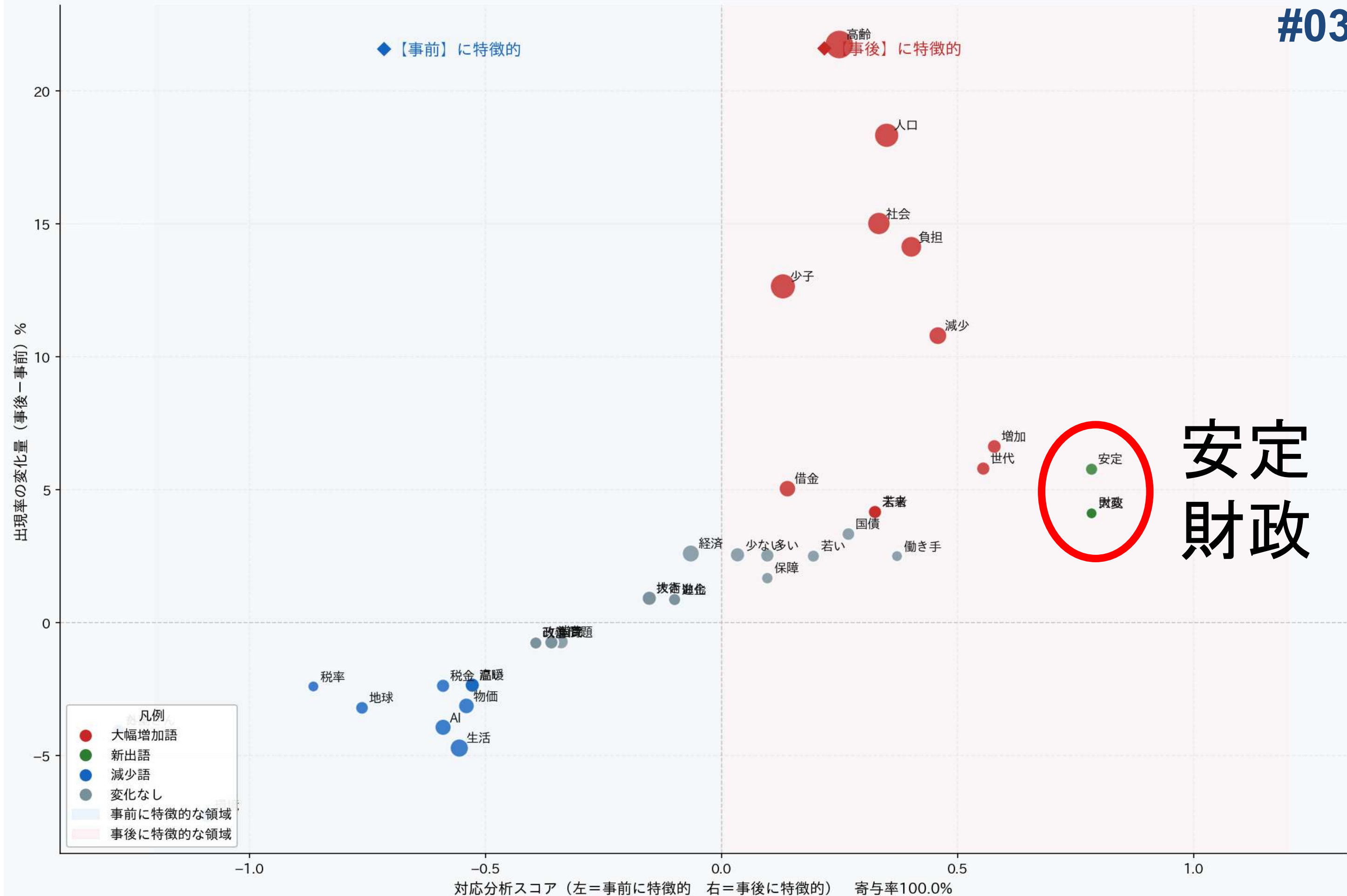
生徒は

社会的意思決定に関わる立場を意識

するようになった

社会参画的思考の芽生え

①将来世代への影響を理由に考える②その理由にもとづいて選択する



発表内容

#04 課題

A(現在志向)を選び続けた生徒
の理由から見えた傾向

意思決定の場面 → 現在志向が優位になる傾向

「未来がどうなるかわからないのに今不便になるのは不平等」

「変に社会を変えて悪い方向に行くよりは今の安心を続けたい」

「今生きているのは私だし、苦しい思いをしてまで未来のことは考えたくない」

未来への配慮を示す記述も一定数確認された

「未来を見て考えることももちろん大切なことと思う。しかし・・・」

「未来も大事だけど・・・」

「今の人も未来の人も不便にならない社会がよい」

おわりに

意思決定：不確実性の回避 による現在優位

👉 「未来はわからない」が未来志向を妨げる



ここを接続する
必要がある

価値観レベルでは長期的な未来志向

👉 未来への配慮が記述に見られるなど長期的な視点

どのような仕掛けをしたら接続できるのか？

参考文献

- ・西條辰義(2026)『実践フューチャー・デザイン』日経BP
- ・財務省「より良い未来のために、今できることを考えよう」財務省ホームページ
https://www.mof.go.jp/policy/budget/fiscal_condition/related_data/202503_fd.pdf (2025.12.10)
- ・財務省「【財政学習教材】日本の「財政」を考えよう」財務省ホームページ
https://www.mof.go.jp/policy/budget/fiscal_condition/related_data/202504_zaisei.pdf (2025.12.10)
- ・財務省「これからの日本のために財政を考える」財務省ホームページ
https://www.mof.go.jp/policy/budget/fiscal_condition/related_data/202510_kanryaku.pdf
(2025.12.10)
- ・中川善典(2024)「フューチャーデザイン実践のために」総合地球環境学研究所
<https://chikyu.repo.nii.ac.jp/records/2000037>

ご清聴ありがとうございました。
ございました。